

平成 27 年度第 2 回高知県職業能力開発審議会 議事録 (概要)

1. 日 時 平成 27 年 10 月 27 日 (火)
2. 場 所 高知共済会館 3 階「桜」
3. 出席委員 大井方子 鈴木康夫 筒井早智子 二宮久美 吉野祐一 大西孝枝
中山和恵 西岡良介 西森信明 泉井安久 川上勲夫 西山正晃
横山香代子 (敬称略・順不同) (13 名)

4. 内 容

○高等技術学校の訓練内容について放送された、県広報テレビ番組「おはようこうち」の紹介。

- (1) 事務局から、これまでの審議会・小委員会等の開催経過について説明。
- (2) 吉野委員 (小委員会 委員長) から、これまでの小委員会での審議内容等 (中間とりまとめ) について説明。
- (3) 高等技術学校の訓練のあり方 中間とりまとめ

○質疑意見等

(委員)

入校生の確保という部分ですが、具体的な取組み内容例ということで、広報的なものが全部出ているということは確認をいたしました。入校生の確保の中で、例えば学校訪問だとか、進路指導の教員に対する訪問の方法だとかいったことについては、どこかに反映をされているのでしょうか。

また、先ほど説明がありました資料 6 ページの分でも、上から 4 つ目について進路指導の先生、生徒、保護者のニーズの違いについて、うまく対応できる広報活動という報告がありました。その時に、結局、私がここで申し上げたいのは、例えば本学などでも学生達に問うと、何によってこの学校を知ったかという質問の中で一番出てくるのは、例えばテレビでも新聞でもなく、進路の先生から聞いたということが非常に多いということがあげられています。それから、先輩に聞いたとか、人伝えのものが非常に多いものですから、ここでいきますと、そういうマスメディアについては非常によく出ているんですけども、例えば学校訪問の強化だとかそういったものについては、どこにも反映されていないような気がします。実は子ども達は、非常に先生方の指導だとか、それから先輩達の話だとかということに耳を傾けるという現実があるんですけども、アンケート調査でもそれが明らかになっているんですが、そういうことが何も出ていないのがちょっと気になっているので、どこかに反映されているのかなということで質問させていただきました。

(事務局)

いただきましたご意見につきましては、次回の小委員会において、議論させていただきたいと存じます。

(委員)

教育委員会が進路指導の先生方を招集する会があるので、高等技術学校も参加し、進路指導の先生方にPRしてはいかがかと思います。

あとで聞きましたら、6月頃にこのような会があるそうなので、来年そういう機会があれば、是非、そういう先生の集まりの場でPRをしていただきたいと思います。

(事務局)

そのあたりも検討させていただきたいと思います。

(委員)

訓練生の支援体制という部分で、就職コーディネーターの配置期間を数年としてということで増やしていく、それから、複数人、人員配置をするという意見が出たと思います。

その時、私ももうちょっと意見を申し上げたかったんですけど、果たして、その人数を増やすことや期間を増やすことが効果的なのかということ。いわゆる費用対効果ということです。

本学の例をとって大変恐縮ですが、例えば300何十人の学生に対して、うちでは就職担当員というのは1人なんです。それが通年やっています。それから、それぞれの担当の学科の教員達が、まず話をよく聞いてやるという体制をとっています。

ですので、外部委託をして、費用を追加して雇用していくことが果たして本当にいいのかどうかという、その費用対効果の問題もすごく大きいと思います。そこに関しても、何かチームワークのとり方というものができるんじゃないかとか、1人だけ専従さんがいるとか。それも、どういう体制で何時から何時まで相談するかというような、うまい組み方をすることによって、そんなにたくさん増やさなくても十分いけるのではないかなというような気がその時にしたものですから、もし、そこでご議論いただける機会がありましたら、そこも是非、もうちょっと議論していただければと思います。

(事務局)

そのことにつきましては、我々の中でもしっかり議論して、本当に増やしていったほうがいいのか、指導員間の連携による効果的な取組はないのか、といったことも議論した上で、最終的にどういったかたちで取り組んでいくかといったようなこともあわせて検討させていただきたいと思います。

(委員)

このあいだ、高知高等技術学校を見学させていただいた時に、コーディネーターさん、もう今、おやめになっておられるんですが、その方から色々お話を聞きました。やはり、大事な時(就職支援が必要な訓練生がいるにもかかわらず)にもうその方の雇用がないわけです(6ヶ月間の雇用のため)。だから、やはり、今、就職率も段々上がってきていますので、そういうことを思うと効果が出てきているのではないかと思います。一足飛びには難しいですけど、経年的に見れば上ってきているし、やはりコーディネーターさんの地道な活動が効を奏しているのではないかというふうに感じました。結果も表れていると思い

ます。

(事務局)

そういったことも踏まえまして、事務局のほうでも検討してみたいと思います。

(委員)

私は建設業に携わっておりますが、やはり技能者というと、人がいなくなってきておりまして、それは産業界全体のことだとも思いますが、産業界で若手の技能者の引っ張り合いみたいところが出て来ています。それは少子高齢化という流れではない部分もございしますが、やっぱり技能というところは日本の産業界を下支えしていると思うので、こういうものづくりの教育機関というのは、やはり大事だと思います。

例えば建設業で言いますと、産業界のニーズは非常に高いんですけど、実はあまり人気が無いということで、例えば土木施工の科を本当は作ってほしいんですけど、作ってもあまり希望者がいないということが予想されます。つまり、産業界のニーズと今の若い人が就きたい職業に差異が生じているという感想を持っております。

どうしてほしいかという、ものづくりについて、色んな産業の広報ですね。ちょっと広報ということで出ましたけど、しっかり予算も付けて、ものづくりの産業というか日本の将来、高知県の将来のために、こういうものづくり、非常にこれから重要で、それから、処遇もどんどん改善されて、小学生、中学生がどんどん注目するような広報、事業というのを考えてやっていただきたいなと思います。

(委員)

最初にご照会のあったRKCの放送をタイムリーで見ましたが、その結果、生徒さんに何か変わったことがありましたでしょうか？

(事務局)

生徒そのものは、やはり世間から注目をされるということに訓練の意義を感じて、よりハツラツとして訓練が続いているように思いますし、その後、訓練生が内定をいただく度に、笑顔を見せてくれますので、心強く思います。これは再々やらんといかんと思ったんですが、なかなか枠をいただけるかどうかかわからないところもございします。

あと、一般の方から、直ちに入校ということじゃないんですが、テレビを見たのでちょっとおたずねしたい、こういう方がおいでるんですけども受験はできますか、いつから募集ですかというのは何件か頂戴いたしました。多分にその、直ちということではないんでしょうけども、今後そういったことが引き続き広報されることで効果が出てくるんでしょうし、品物を買っていただくのと同じように、我々のサービスを絶えずPRしていかなければいけないなと感じました。

(委員)

目指すべき姿というので目標値も見せていただいているんですが、基本的に、人数も増やさなくてはならないという部分の中で、県として、この学校として、覚悟も必要だと

思うし、県の覚悟も必要だと思うんですけど、どういう子達をしっかりと受け止めていこうとしているのかということが、もうちょっと明確になったほうが進路の先生達は非常にいいと思うんですね。

例えば、中学校出た時に行くところがなくて、だけど、じゃあ、すごい寂しい子達もいて、アピールすることが大好きで、そういう子達は、結局は髪を真っ金々に染めて耳に穴をあけて、そして、皆そういう仲間がたむろって、コンビニの前で座ってしまうという子達。でも、そういう子達に声をかけると、実は仕事をしたかったり、それから、こういう技術を身につけたかったりする子っていっぱいいるわけですよ。

私、中村校に行って、中村の訓練を受けている子達があまりにも表情がいいので、いっぱい声を掛けてみました。「どうよ、この仕事、面白い？」って聞いたら、「チョー面白い」って言うんですね。すごいかわいいなと思って。「どう、この仕事をやってみたいと思う？」って言ったら、1人は、「やるっす」って言うし、左官の訓練をしているところに行くと、1人は、「これでやってみたいと思います」って超真面目な答えが返ってくるのと、1人は、「ちょっと考えています」と言う。「どうして？どうして考えよう？何を考えよう？」ってきいたら、「就職先のこととか、ちょっとこれが自分に合うてないかもしれないっす」みたいな、そんな話があって、いっぱい子ども達と話をしたので、すごいご迷惑をかけたんですけど、いっぱい聞いてみた中で、でも、一樣にあの子達は、毎日こうやって訓練していきゆうということに、非常に生活のリズムがきちっとあるということに満足をしていて、出て行こうとかやめようとかあんまり思っていない子達なんですね。

だから、そういう子達をしっかりと、もちろん、やんちゃボーイもやんちゃガールもどっさりおりますけども、そういう子達をきちっと高知県の中で雇用して、そして、ものづくりのスタッフにしていく、今、おっしゃったように人手が足りない中で、こういうことをきちっと自分達が技術を身に付けていくことによって、自分の中のモチベーションが上がっていくとか、そういった子達を全部あずかりたいというふうなスタンスで、例えば中学訪問ができているかとか、中学の説明会の時に、そんな話ができるかということとは、すごく大事だと思います。

それと、非常に貧困層が増えていきます。すごく貧困で、高校へ行きたくても行けない。お姉ちゃん、お兄ちゃんを高校にやらないかんき、自分は我慢する。もちろん、今、お金がかからなくなっているんだけど、その上の専門学校にやらないかんき、俺、我慢せんといかんと言う子も今、いたりする。

そんな中で、お金が本当に要らなくて、とにかく手先が器用だったり、こんなことをやってみたいと思うような子達はおいでというような、そういうふうなスタンスでいるのかとか、どういう子達をしっかりと入れていくことによって増やしていこうとしているのかということが明確に見えないと、ただ、目標をあげても非常に厳しいものがあると私は思っています。

むしろ、だから、高知県のためには、本当にアピールしたい子達がいっぱいいて、自分

のことを理解してもらいたい、ちょっとほめてもらいたい子達があまりにも高知県の中にたくさんいる。そんな子達をうまく上手に救ってやれるのは、こういう施設ではないかと。例えば専門学校だったら、お金いっぱいかかるけども、ここだったら、年間わずかな金額で行ける。そして、仕事をして返せるぞというふうな熱い話が例えばできるような、そういうことをだったら、きっとたくさんの子達は、さまよえる子達は救っていけるんじゃないかなという気がします。

そういうものをこの学校は、そういう役割を担っているのではないかなというふうに私は思っていますので、その広げて行き方については、是非今後ご検討をしっかりといただければと思います。

(事務局)

第1回審議会の時にもそういったお話になったと思います。このことは大変大きなテーマだとは思いますが、今、すぐこうですと言うことはなかなかできませんが、今いただいたご意見をふまえながら、今後の高等技術学校のあり方やPRの仕方を我々考えていきたいと思っております。